

## 第81回車座集会意見交換内容（幸区・建設緑政局）

- 1 開催日時 令和8年3月14日（土） 午後3時00分から午後5時00分まで
- 2 場 所 夢見ヶ崎動物公園パークセンター
- 3 参加者等 参加者17名、傍聴者約8名 合計25名

### <開会>

司会：それでは、定刻となりましたので、ただいまから第81回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、幸区役所企画課の塚本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、「みんなでつくる・つながる・つづける・感じる動物公園」と題しまして、夢見ヶ崎動物公園や周辺地域をさらに盛り上げるために、市長と参加者の皆様に意見交換を行っていただきます。

それでは、まず初めに、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶申し上げます。

市長、お願いいたします。

### <市長挨拶>

市長：改めまして、皆さん、こんにちは。福田紀彦です。

すごく場違いな格好で、動物公園にこんな格好で来ている人はあまりいないと思いますけど、ちょっと前後のイベントの関係で、すみません、失礼します。

車座集会は81回目ということで、もうすごくいっぱいやっています。今月、4回ぐらい、毎週末ごとにやっている感じなのですが、本当にテーマがみんな違って、今週の平日にやったのは、川崎区で外国人との共生をテーマにやりました。

先週は、何区だったかなというぐらいですけど、麻生区で、区役所を使い倒そうという取組をやったりとか、何かいろんなテーマに沿ってやっているのですが、実はこの場所というか、加瀬山をテーマに、動物公園をテーマにやったのは8年前にもやっているんですね。

平成29年のときで、成川会長もいらっしゃいましたが、この夢見の場所をどうやってもっと活性化できるかというふうなことで話したのが8年前で、以来、翌年、ゆめみらい交流会というのができて、それから7年間、コロナもいろいろあった、なかなか活動できなかった時期もありましたけれども、最近、また、いろんな形で取組をやっていただいているということなので、さあ、次はもう一段高いステージに行こうということで、今日は関係者の皆さんというか、小学生も含めて集まって、みんなで次のステージに頑張っていこうということの取組でありますので、ぜひ活発に議論いただいて、必ず次につながるようなお話を、前向きな話をしたいというふうに思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：市長、ありがとうございました。

続いて、本日ご参加いただいている皆様に、自己紹介をお願いしたいと思います。

ここでの進行は、ゆめみらい交流会で、毎回、司会を務めていただいている大塚さんと青山さんをお願いしたいと思います。大塚さん、青山さん、お願いいたします。

大塚さん：ありがとうございます。今ご紹介いただきました私は、お手元の皆さんがお持ちの名簿の1番、ゆうゆうこと大塚優と。

青山さん：17番の青山はるかです。

大塚さん：よろしくお願ひします。司会というか、皆さんの自己紹介をサポートさせていただきますね。

皆さんに、これからお名前と、あとは、ご所属、団体や学校などと、ご自身のアピールポイントとか、得意なこととかがありましたら、1分程度で自己紹介をしていただきたいと思います。

1分は、こんな感じで、目に見えるタイマーを稼働させますので、その中で、皆さん、ぜひご協力ください。

この後、私が、お手本といいますか、トップバッターで、1分間、自己紹介をさせていただきますが、2番と3番のさいわい加瀬山の会、成川会長と橋本事務局長、こちらのお2人、それから、お隣の慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の山岡さん、そして、お隣、NPO法人はたらくらす、石渡さん、こちらの4名の皆様は、この後、団体紹介ということで、活動のご紹介の時間を別に設けておりますので、後ほど、そのときにご紹介いただくということで、まず、今、私からお名前だけのご紹介とさせていただきます。

それでは、1分の自己紹介はこんな感じで、皆さん、お願ひしますというので、やらさせていただきます。

皆さんは、ぜひ、その場で立って、自分のお席のところで、こういう感じでやっていただきましょうか。

私もここで。

それでは、はるちゃん、お願ひします。よーい、スタート。

初めまして。(自称)夢見ヶ崎動物公園専属アイドルGABUのおしゃべり担当リーダーのゆうゆうこと、大塚優と申します。アイドルということで、私、この夢見ヶ崎動物公園のすぐ真下の日吉小学校で育ちましたので、加瀬山は子供の頃からとても身近な場所でした。気の合う仲間と、お友達同士4人組で、歌ったり踊ったりして、地域を盛り上げる活動をしています。

幸区の中だと、幸区民祭で司会をさせていただいたりとか、川崎市内でもいろいろなところで歌ったり踊ったりして、地域の皆さんと交流を楽しんでいるグループです。

本当に、もう歌うこと、踊ること、おしゃべりすることがとても大好きなので、ぜひ、皆さん、仲よくしてください。今日は、いろんな方のお話を伺えるのを楽しみにしてきました。どうぞよろしくお願ひします。

ありがとうございます。こんな感じで、自分で言うのも変ですけど、では、この後、皆さん、自己紹介ということで、では、マイクを5番の方に回させていただきます。この後は、では、皆様、6番ですね、失礼しました。ご紹介させていただきます。

私から、まず、お名前をご紹介してよろしいんですね。

6番ですので、株式会社ジェイアール東日本都市開発神奈川支社の菅井さん。

じゃあ、マイクは、ご紹介の方は、ご自身でお隣の方に回していただきましょうか。私は、こちらで座ったまま、皆さんのご紹介をさせていただきます。

それでは、菅井さん、よろしくお願ひします。

菅井さん：ありがとうございます。

皆様、こんにちは。ジェイアール東日本都市開発神奈川支社の菅井と申します。

私は、夢見ヶ崎動物公園のお隣にあります、コトニアガーデン新川崎という施設の運営管理を担当しています。コトニアガーデン新川崎は、多世代交流ですとか、あとは、ずっと住みたいまち、北加瀬をつくろうということを掲げている施設です。

なので、定期的にイベントを開催したりですとか、あとは広場のお貸出しなどをさせていただいているので、ぜひ、皆さんも、コトニアのイベントに参加したいという方がいらっしゃったら、お声かけいただけるとてもうれしいですし、広場のほうも、ぜひぜひ、どんどん気軽に使っていただけたらと思っています。

今日は、お隣のこの動物公園について皆さんが議論されるということで、私もとても楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひいたします。

大塚さん：ありがとうございます。

それでは、マイクはお隣に回していただいて、続きまして、クレストプライムレジデンス自治会会長の浅利さんです。よろしくお願いします。

浅利さん：浅利と申します。よろしくお願いいたします。

そうですね。ごめんなさい。一気に吹っ飛びました。

私も、いろんなお祭りをやっています、商店街の方々と、この加瀬山を盛り上げるような取組をやりたいなという話をしていたときに、このお話をいただいて、ぜひ参加させていただきたいということで参加させていただいたんですけれども、まさか自分の娘の学年の生徒と一緒に出ると思わなかったので、ちょっと緊張しています。

弊自治会としては、30代が多いマンションになりますので、ぜひとも、その子育て世代が楽しめるような場所にさらになっただけだと思います。よろしくお願いいたします。

大塚さん：ありがとうございます。

続いて、NPO法人studio FLAT、理事長の大平さんです。よろしくお願いします。

大平さん：studio FLATの大平です。よろしくお願いします。

studio FLATは、この下のコトニアガーデン新川崎の南棟の3階にありまして、障害のある人たちがアート活動をやっています。目の前のふすまの絵だとか、「つながる・ひろがるゆめみらい交流会」という看板とか、そちらにある「YUMEMI ZOO」という看板とか、みんなで作っていただいて、今日はまた後で紹介するんですけど、無印さんから頂いている廃棄のプラケースをアートでリメイクして、アートプラケースみたいな形で、いろんなところで再利用できたらいいなというので、次の3月20日に、新庁舎の方で「バリアクエスト」というイベントがあるんですけど、そこでもやるので後で紹介させていただけたらと思います。よろしくお願いします。

大塚さん：ありがとうございます。

続きまして、NPO法人幸区盛り上げ隊、理事長、そして、隊長でいらっしゃいます倉林さんです。よろしくお願いします。

倉林さん：よろしくお願いします。NPO法人幸区盛り上げ隊の倉林智美と申します。

幸区盛り上げ隊は、幸区を「ママが楽しく暮らせる街に」ということで、活動させていただいております。ママへの発信と、幸区の魅力発信、この2本柱でやらせていただいております。

事業としては、子連れで参加できるイベントの企画運営だったりとか、手に職を持っているママたちがたくさんいますので、その方たちとマルシェの開催、あとは幸区内の飲食店舗さんとのコラボで商品販売をやったりとか、あとは、これですね、にゃんだふる通信ですね。今回、市長も載っております。

ボーイスカウトの寄附の表彰で、ちゃんと許可を得て掲載させていただいておりますが、幸区にゃんだふる通信の発行とか、あと、親子カフェの経営などなどを行っております。

もう時間になってしまいますので、本日は楽しみます。よろしくお願いします。

大塚さん：ありがとうございます。

続きまして、川崎市立川崎総合科学高等学校デザイン科の富安さんです。よろしくお願いします。

富安さん：川崎総合科学高校デザイン科の富安夏鈴です。

始まる前に、1枚、このプリントをお配りしたんですけど、私は、去年1年間、自分の卒業制作ということで、夢見ヶ崎動物公園でシールラリーというイベントをさせていただきました。ターゲットにしていたのは、小学生とか、小さい子もそうなんですけど、昔、動物園に来ていて、最近来ていないなという子とかが、また来るきっかけになればなと思って、企画をして、絵とかも、全部、自分で描いて、運営まで1人でやるということを通して私の将来の進路にも生かせたらなと思って、半年やりました。今日はよろしくお祈いします。

大塚さん：ありがとうございました。

続いて、幸区ソーシャルデザインセンターまちのおと、菅原さんです。よろしくお祈いします。

菅原さん：皆さん、こんにちは。幸区ソーシャルデザインセンターまちのおとの菅原と申します。

場所は、新川崎駅と鹿島田駅の真ん中にあります新川崎タウンカフェという場所にあります。

ふだんは地域活動団体さんの応援だったりとか、いろんな交流をつくる活動をしておりまして、今年度もいろんな活動をしてみたいなという方の活動がたくさん生まれました。

今日も、あまりこういうちゃんとした場は苦手なんですけれど、皆さんと楽しくお話ししながら、皆さんがつながって、いろんな活動を応援できるようなつながりをつくっていきなと思ひますので、どうぞよろしくお祈いいたします。

こういうときもあるんですけど、ふだんはカフェでコーヒーを淹れていたりもするので、ぜひ遊びに来てください。お祈いします。

大塚さん：ありがとうございました。

続いて、公益財団法人川崎市産業振興財団、かわさき新産業創造センター所長の井出さんです。よろしくお祈いします。

井出さん：ちょうどここから5分、10分ぐらいですかね、新川崎・創造のもりということで、慶應義塾大学さんですとか、さいわいふるさと公園があるところにKBICというインキュベーション施設、昔でいうベンチャー企業とかと呼ばれた企業さんが入居している施設があります。そこは本当に量子コンピューターですとか……。

大塚さん：今、マイクが入っていなかったかもしれないので、もう1回、1分いきましようか。せつかくなのでね。YouTubeでご覧になってくださっている方もいると思うので。

では、改めて、今、もう練習できたので、ばっちりですね。

改めてご紹介しますと、公益財団法人川崎市産業振興財団かわさき新産業創造センターの井出さんです。お祈いします。

井出さん：すみません。では、また、改めて失礼いたします。

ここから5分、10分ぐらい歩いたところに、新川崎・創造のもりというところがございまして、さいわいふるさと公園ですとか、慶應義塾大学さんですとかがあるところに、我々のKBICというインキュベーション施設がございまして。

このインキュベーション施設は、昔でいうところのベンチャー企業、最近ですとスタートアップなんて言

われていますけれども、もう本当に最先端の技術を持った会社さんが入居している施設になります。

目玉としては、量子コンピューターなんかがあったりとかして、非常に今、一番注目されている施設なんですけれども、今回、こちらのほうでこういった会を催されるということで、何かお手伝いができることがないかなと思って参加させていただきました。

今日は、いろいろと皆様のお話も聞かせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

大塚さん：ありがとうございました。

続いて、名簿の順番でいきますと、新小倉小学校の児童の皆さん4名、続いていきたいと思います。

まずは5年1組の佐々木さんです。

では、よろしいですか。じゃあ、立とうか。よし。

トップバッター、緊張しないで。みんなで、今、相談中ですね。

名前と学年と、じゃあ、好きな教科でも、好きな趣味でも、習い事でも、給食でも何でもいいよ。

それでは、お願いします。

佐々木さん：新小倉小学校5年1組の佐々木葵です。

得意なことというか、好きなことは動物を見ることです。好きな動物は、タヌキとか猫です。

大塚さん：ありがとうございます。

では、続いて、同じく新小倉小学校5年1組、田中さんです。

よし、それでは、前を向いてお願いします。どうぞ。

田中さん：新小倉小学校の5年1組の田中惇翔です。

得意なことは、話すことが好きで、学校とかでも交流のときに話していたんですけど、今日は、学校と、ひとつ離れたこの交流でいっぱい話すことを目標にしています。よろしくお願いします。

大塚さん：ありがとうございます。

さあ、続いて、同じく5年1組、巢山さんです。よろしくお願いします。

巢山さん：新小倉小学校の5年1組、巢山栞です。

得意なことというか、趣味で、なかはらミュージカルというミュージカルに参加しております。

好きな給食は、きなこパンと湘南ゴールドゼリーです。よろしくお願いします。

大塚さん：すごい。私が小学生だったときに出なかったゼリーの名前が出てきて、びっくりしちゃいました。

それでは、小学生、もう1人ですね。5年2組、イオリさん、お願いします。

イオリさん：新小倉小学校の5年2組、イオリ フウリンです。

私の特技は絵を描くことで、好きな教科は図工です。

今日、皆さんと話すのを楽しみにしています。よろしくお願いします。

大塚さん：ありがとうございました。

そして、ここまで1分を計ってくれた、はるちゃん、ご自身の番ですので、では、自己紹介をお願いします。

す。

青山さん：私は、17番、スタジオBEBEオーナーの青山はるかと申します。はるちゃんと呼ばれております。

場所は、ここから歩いて10分ぐらいのところにあります、北加瀬三丁目で写真館をやっています。

ふだんは、七五三やマタニティフォトなど、その人の命がそこにあったあかしを写真に収めております。

動物公園の魅力発信の写真も跨線橋に貼らせていただいておりますので、ぜひ、お立ち寄りの際はご覧くださいませ。

そして、本日は、川崎市長、福田市長、建設緑政局、河合局長、そして、幸区、山口区長、夢見ヶ崎動物公園園長の小倉園長、こちらの豪華なメンバーで進めてまいりたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

それでは、進行を事務局にお渡しします。お願いします。

司会：皆様、ありがとうございました。

続きまして、昨年50周年を迎えた夢見ヶ崎動物公園について、現在、再整備計画が進んでおります。

これにつきまして、夢見ヶ崎動物公園の小倉園長より動物公園の現状と将来像についてご説明いたします。

#### <動物公園のいまと将来像>

園長：夢見の小倉でございます。本日は貴重なお時間、ありがとうございます。

少し夢見のことについてご説明させていただきます。

夢見ヶ崎動物公園は、昨年度、50周年を迎えまして、このパークセンターを建設いたしました。

その中で、今、再整備計画案をつくっております、これから50年、どういった形で夢見をやっているかというところを、市長とか、皆さんと議論をさせていただいたんですね。

その中で、中心軸を、この「いのちを感じる」という軸を基軸にして事業展開をしていこうということで、どんなことがあっても、何度でも、何度でも、ここに戻ってくる、「いのちを感じる」というテーマに戻ってくるというテーマで、再整備計画を進めてまいります。

「いのちを感じる」が中心にあるんですけども、私どもは、大切な命、加瀬山の命、動物の命、野鳥の命、昆虫の命、動植物の命、いろんなものがここに息づいておりますので、そんな命を守っていく、そして、ここに来ていただいて、命を実際に体感していく、五感で体感していく。そして、命への共感を持ち帰っていただいて、まず、命を守るという行動に少しでもつなげていただければいいかなというふうに、園長としては強く願っております。

動物園はたくさんあるんですけども、私どもは365日やっている動物公園、加瀬山の山の中で、自然の中で、動物と共に、自然と共にやっている動物園なので、この「いのちを感じる」というものを軸にやっていきたいというふうに考えております。

次のページをお願いします。

動物公園にとどまらず、加瀬山全体、そこから、また地域にどんどん波及していきたいというふうに考えておまして、今日たくさん参加いただいている方々、地域の方々に、いろんなパワーとか、強みとか、いろんなことをやっていらっしゃるの、そこを助けていただきたくて、ゆめみらい交流会、昨年度から、「いのちを感じる」というテーマで、いろんな展開を、力を貸してくださいという形をお願いしております。

そんな中で、後ほどご紹介がある慶應大学さんとか、はたらくらさん、加瀬山の会さんは、もう20年以上、ずっと加瀬山の命を守っていらっしゃるの、お願いするまでもないんですけども、毎日、休むこ

となくやっていたいているというような状況になります。

そんな中で、新しい取組として、夢見ヶ崎保育園というところがあるんですけども、その園の皆さんが、園庭でサツマイモを作ってくれたんですね。そのサツマイモを、山を登って持ってきてくれて、動物の餌にしてくださいという形で、プレゼントしてくれました。

そのサツマイモを飼育員が調理をして、お猿さんにあげて、おいしいよというような形でお手紙を作って、これは命を園児の方が育てて、そして動物たちの命を守るという、実際の行動の第一歩なんです。これが命の循環という形で、フンになって、また土に還ってという、命がぐるぐる回っていくものということ、保育園と一緒に、私たちはやらせていただいています。

もう1つの事例なんですけれども、今度は、植物、花壇なんですけれども、今週、実は地域の保育園の皆さんと花壇を作りました。これは、ただ花壇に植えるだけではなくて、命を育てていく、みんなで同じように育てていくというテーマで、花壇を作って、地域の皆さんは、お散歩にいらっしゃるので、夢見にも花壇を作って、そこに水やりをしていただいて、命をみんなでつないでいくという行動を地域の皆さんと始めさせていただきました。

こういう取組を、小学校の皆さんともぜひやらせて、この前、命を感じる授業というのをやらせていただいて、今日、実は彼は予習に来て、命を感じるということ、動物でどんなテーマで話せばいいかということ、実は、午前中、予習にいらっしゃいました。

こういった形で、地域と一緒に、いろんな命を育てて、命を大切にするというものを、この輪をどんどんどんどん広げていきたいなというふうに思っています。

次のスライドをお願いします。

実際の活動なんですけれども、はたらくらさんが、こういったハロウィンの飾りつけをしたり、これは跨線橋のところ、ナミキデザインさんというのは、本当にここにも飾ってあるんですけども、すてきなイラストを、季節とか、動物の生態を解説したデザイン、ポスターを作っていただいて、地域の皆さんにお伝えしたりとか、動物園祭りとか、そういうところで発表したりとか、実はリトミックを、毎月、地域の保育園さんがやっていたいて、これをだっこして、心臓の音を聞きながら音楽を奏でるというのは、とっても大事な命を感じるのかなと思いますし、消えちゃいましたけど、加瀬山の会さんが、花壇に植えたり、花壇に植えるときに、昆虫に出会ったりとか、いろんな、土を触ったりとか、体験の中で体感していますので、命を感じるということが、皆さんの行動一つ一つが、今、命を感じるということにつながっていて、とても感謝しております。

今後、どういった展開になっていくのかというのが、今日、皆さんにご提案いただくのが楽しみではないので、ぜひ、活発なご意見をよろしく願いいたします。

司会：ありがとうございます。

それでは、続きまして、ゆめみらい交流会に参加経験がございまして、夢見ヶ崎動物公園や加瀬山で活動されている3つの団体の皆様より、活動紹介をしていただきます。

それでは、最初に、さいわい加瀬山の会さん、お願いいたします。

#### <団体活動紹介>

成川さん：こんにちは。加瀬山の会の成川と申します。よろしく申し上げます。

市長さんとお会いして、もう何年になりますか。10年以上。

前回の8年前です。おかげさまで、お手植えの桜がようやく咲き出した、ちらほらですけど。

これをデザインしながら、加瀬山をきれいにしていこうということは非常に大切なことだなと。

命を守るということに、セミの抜け殻の調査、これをもう5、6年やっているのかな。

最近、小学校、新小倉の小学校、それと、4小学校と、日吉地区の4小学校、この皆さんと、それと地域の保育園と、花を守りながら、大切なことを学びながら、我々は、動物公園がきれいになったおかげで、より一層入れてみるという、皆さんも、年長者がもう老人だらけで、皆さんが手伝ってくれることに対して本当に感謝しています。これから、我々も元気いっぱいやっていけると。

それともう1つ、私が自慢でいるのは、こういう、ここは、動物公園祭りの皆さんが手伝ってくれる。大分きれいになりました。芝が非常に、最近、きれいに。それで、皆さん、地域の方々が、テントを張って、毎週、いっぱいになっちゃうんですよ。これがうれしいですね。

あと、自慢としては、ごみが落ちていない。落ちていたら拾ってください。そうすると、より一層、きれいになりますので、どうぞよろしく願いいたします。

橋本さん：さいわい加瀬山の会の橋本と申します。よろしく願いいたします。

ちょっと補足で、このテーマであります、加瀬山の命を守る、命を、環境を伝えるということで、私どもは、夢見ヶ崎動物公園、この加瀬山の緑の再生、これをやっぱり活動の大きな柱にしております、前に市長さんが来られました、一応、最初には、私が入る前でしたんですけども、100万本植樹というのを実は2013年度にやっておるんですよ。

それは、ちょうどロータリーの入り口辺りに、山吹をいっぱい植えたことがあるんですよ。それが群生している山吹が、園内に何か所か、山吹が群生しているところがあります。

それから始まりまして、実は2020年、このときに、150万本植樹というときに、このとき、桜を私どもは植えて、そのとき、東日本大震災、その復興の桜というので、福島のほうで、新たな八重系の、はるかという、それを、市長さんを含めて植樹したということがあります。

それと、そのときにはアジサイも植えていますし、オオムラサキツツジも植えて、そのとき約140本、植樹、この園内でやっております。

その後、また、続いて、古くは山吹の前に始まって、アジサイを近隣の人たちのアジサイの植樹をやって、そこから、どんどん、小学校の卒業の記念のための植樹、これはアジサイです。

それから、また改めて、またアジサイの苗木を、富士通さんですけども、これは育てていただきまして、これまでに3回、340本の苗木をいただきました。それも、今、どんどん植えていくようになって、もう既に、この山で1,000本を優に超えるだけのアジサイのあれになっております。

というところで、こういう命を再生していくという力をやっています。

最後に、一応、私どもの1年間の活動ですけども、ここに写真がありますので、終わったら見ていただければありがたいと思います。どうも。

司会：さいわい加瀬山の会さん、ありがとうございました。

続きまして、慶應大学大学院メディアデザイン研究科、山岡さんとNPO法人はたらくらす、石渡さんに、それぞれご紹介いただきます。

こちらの2団体は、昨年完成したパークセンターを活用し、ワークショップを共同で実施されています。

それでは、初めに、慶應義塾大学さん、よろしく願いいたします。

山岡さん：よろしく願いいたします。慶應大学の山岡です。

夢見ヶ崎動物公園さんとは、1年くらいですけど、その中でたくさん、一緒に、共同で研究させていただいたので、本当にすごくありがたく思っています。

今日も、幾つか、うちのプロジェクトとかも紹介しながら、どういうことをやられているかというのをご紹介したいと思うんですけども、その前に、我々の、次のスライドで、慶應義塾大学大学院メディアデザ

イン研究科は、日吉駅を出てすぐの日吉キャンパス協生館というところであって、デザインとか、テクノロジー、マネジメント、いろんなことを融合させる研究をやっている大学院です。

社会とのつながりを大事にした実践的な学び、プロジェクトというのをやっています。

本当に研究グループがいっぱいあって、AIをやっていたり、インターネットをやっていたり、量子コンピューティング、サービスデザイン、教育、いろんなことをやっているところがあって、留学生も多いという場です。

次のスライドで、私、山岡は、Future Craftsプロジェクトという、新しいデジタル技術とものづくりを融合させたような、新しいデザインの研究をやっているグループです。

この夢見さんとの共同で一緒にやっている同僚の先生で、陳先生は、Concordiaというプロジェクトをやっていて、彼女はマーケティングとか、コミュニケーション、そういうことに関する研究をやっている方です。

今回、慶應からは、2つのプロジェクトが動物園さんと一緒に共同研究しているという感じで、次のスライドで、実際にどういうことをやっているか、ちょっと紹介していきたいんですけど、これはうちからの研究で、動物、これは夢見さんに動物がいるんだけど、なかなか触れられる体験が少ないよということで、それを実際に触れられる体験を増やしたいなということで、ぼこぼこ膨らむような装置を作って、動物の呼吸とか、息遣いというのを触るだけで体験できる、そういう触覚的な装置を作ったりして、展示したり、実際に、このラマの毛をいただいて、それを貼り付けて、触れるみたいなことをしたりとか、骨格標本、そちらにあるような、ケースに入っているので触れないんですけど、それを触れるような体験をつくりたいということで、3Dスキャンでデータにして、実際に3Dプリンターでつくってみました。

これなら触れるので、これは触って、かつ、いろんな詳しい情報が出るような展示をやったりとか、新しいこういう体験をつかって、後でぜひ触ってみてください。

次のスライドで、あとはConcordiaチームからは、コミュニケーションの研究なので、園に来た親子の距離をもっと近づけたいなということで、ポスターにもあるんですけど、写真を撮るときに、親子で協力するようなフレームのキットというのを作って配布したりとか、あとは、こちらのほうで動物の食事を粘土工作を通じて学んだりとか、そういう動物をモチーフにしたお守りを実際に作って、それを持って帰れるような、そういうワークショップをいろいろとやっております。

次のスライドで、なので、こちらのパークセンター内で、定期的にワークショップとか、展示をたくさんさせていただいて、大学の研究的には、現場で実際にデータをいろいろ収集できたりとか、分析して、次の研究に生かすことができます。

大学内で閉じるのではなくて、こちらのほうで実践的なラボのスペースのような形で活用させていただいております。そこから、いろいろ、ここの研究、ワークショップから、いろいろな、春のお祭りとか、イベントで参加させていただいたり、今後も、コトニアガーデンさんで、フェスタでワークショップをしたりと、いろんな広がりを見せておりますということで、これでうちからの紹介を終わりたいと思います。ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。

続きまして、NPO法人はたらくらすさん、お願いいたします。

石渡さん：石渡です。はたらくらすの活動を紹介させていただきます。

はたらくらすは、そもそもどんなことをやっているかと申しますと、コンセプトとしては、響き合いから自信が生まれ、挑戦と共創が広がる、そんなプロジェクトとか目的をまちでかなえるために、4つの事業をやっております。子育て支援や教育など、4つの事業を、20名のスタッフと共にやっている、はたらくら

すです。

スライドにありますのが、去年の夏にパークセンターで行った活動です。

左側のが最強どうぶつをつくらうというワークショップで、パークセンター内で、動物の防衛機能についてのレクチャーを受けた後に、実際に動物を見に行き、よく観察して、また、こちらに帰ってきて、パークラフト、自分のオリジナル最強どうぶつをつくるというのをプログラムとして行いました。

また、右側が、慶應大学さんのほうと、リレー形式のイベントだったんですけど、同時にやっているのではなくて、お互いに同じテーマ、命を感じるというところをテーマにしながらリレー形式でやったワークショップです。

プラスチックごみになってしまうペットボトルのキャップを使って、アップサイクルとして、写真にありますキーホルダー作りをしました。それを作ったり、海洋プラスチックの課題を考えたりする、そういうプログラムを行った企画でございます。

私どもは、どの企画においてもそうなんですけれども、いろいろな方と共に作っているというのを大切にしています。

左側の企画においては、命と自然の学生基地に所属する獣医学生の学生さんのボランティアを受け入れて、ともにやっていました。

そして、右側については、慶應義塾大学大学院のメディアデザイン研究科の山岡先生のところとのリレーワークショップをしましたという企画です。

私どもは、ここだけではなく、例えば、この麓にありますコトニアガーデン新川崎で、子育て支援の活動、「青空子育てひろば」という、乳幼児親子のための外遊びを、年に10回、このような形で開催しています。次をお願いします。

ここのひろばなんですけれども、4年やっておりまして、4年前に始まったときには、今日いらっしやっておりますジェイアール東日本都市開発さんに多大なるご支援とご協力をいただきまして始めることができました。

4年たちまして、これだけ共に作るという方々が広がっているというのが言いたいことです。

企業さんですとか、個人の事業主様、ここにいらっしやる青山さんもサポーターになってくださっているんですけれども、そういう方々ですとか、助産師などの専門の方々にも関わっていただいて、また、ここでも学生さん、青山学院大学の学生さんに、ボランティアで年間を通じて関わってくださっているというのが、とても地域にとって価値かなと。皆さんと共に、子育てはたくさんの手と笑顔でというのを形にできているんじゃないかなというのを思っている企画です。

また、親子さんにおかれましては、ただ、支援させてもらっているという立場ではなくて、そこにいてくださることが、学生さんにとって、生きた子育てを体験できる、また、企業のボランティアのスタッフさんにとっては、癒やしがもらえたみたいところで、とても相乗効果がある、いい企画だと思っております。

次、お願いします。

そして、さらに、この地域で子供たちが活躍していますということで、私ども、教育事業としましては、社会教育のほうで、小中学生を対象にした、本物のお商売体験というものと、本物のフェスタのお仕事体験というのに力を入れてやっております。

コトニアガーデン新川崎でも活躍してもらってますけれども、武蔵小杉でも、右側の大規模フェスタでも活躍しています。

直近ですと、再来週、3月28日に武蔵小杉防災フェスティバルで子供スタッフプログラムを行う予定で、お子さんには、先ほどチラシを渡したんですけれども、小学生の参加も大募集しております。

中高生におかれましては、ボランティアスタッフという形で、小学生の応援をしてもらえたらなと思って、こちらも募集しています。

市長もご登壇される予定の、すごく大きいイベントの防災フェスティバルもやっております。

こんな活動を通じて、子供たちも自信をつけられる、また、社会の中で実践できるという場が、この地域でできているというところに、皆さんにも可能性を感じていただいて、子供たちも一緒にまちづくりができるよというところを覚えておいてもらえたらいいなと思います。

私のお話は、これで以上です。ありがとうございます。

司会：ありがとうございます。

<意見交換 テーマ：動物園・加瀬山を盛り上げるために、やりたいこと・できること>

司会：それでは、ここから、市長と皆様で意見交換をしていただきます。

進行を、市長、よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございました。

事例発表と、それから、それに先立った自己紹介で、自己紹介を聞いているだけで、すごい、このメンバーで車座集会ができるって、むちゃくちゃ楽しいと、ものすごくわくわくしてきました。

この夢見ヶ崎動物公園なんですけれども、動物園じゃない。動物公園になっているのは、何ででしょうという話なんですけれども、これは、公園は誰のもの、今日は新小倉小学校のみんなが来ているから、ちょっと聞いてみようかな。公園が誰のものですか。

巢山さん：みんなで使う共用の場所。

市長：みんなで使う共用の場所、公園。いいね。

ほかにも聞いてみましょう。公園って、誰のものでしょうか。

はい、どうぞ。

佐々木さん：お子さん連れだとか、そういう子連れの方を対象とした憩いの場所だと思います。

市長：優しい。

はい、どうぞ。

田中さん：誰でも参加できる、公共の場所だと思います。

市長：はい、どうぞ。

イオリさん：みんなが楽しめる場所で、みんなが来て、楽しくやるみたいなところですよ。

市長：すばらしい。

今日は、校長先生も傍聴に来ておりますけれども、すばらしい答えにほっとしていると思いますが、みんなが、全員、ある意味、みんなのものというふうに言ってくれたのが、むちゃくちゃうれしいです。

公園はみんなのものです。時々、勘違いして、川崎市とか、幸区のものと言っちゃう人がいるんですけど、そうではありません。公園というのは、市民、あるいは区民の皆さんの共有のものです。皆さんの財産ですから。

この公園というのは、いろんな公園が近くにあると思いますけれども、すごく特徴的な公園が川崎市に2つあります。

1つは、この夢見ヶ崎動物公園ですね。こんなに動物がいるところは、川崎市内の公園にはありません。

あともう1つは、あえて言えば、等々力かな、等々力緑地の公園、あそこは、もうスポーツの施設があるので、スポーツをする、そして、見る、支えると、応援する、そんな場所で非常に特徴的な公園です。

だから、この公園というのは、とても川崎市にとって大切な、大切な、みんなの場所なんですけど、先ほど園長から聞いたら、2年前の令和5年のときには、お客さんは12万5,000人、そして、今年は、まだ3月末までありますけれども、今年度は、何と25万人にいきそうだと。だから、2年前から倍にお客さんがなりましたということなんですね。すごくない。

というのは、恐らくこのパークセンターができたというのも1つの理由。

だけど、先ほど加瀬山の会さんが、アジサイを植樹して下さったとか、まさに5月、6月、いっぱいになっているんじゃないかと思えますし、山吹もそう、桜もそう、先ほど見てきたら、パンジーもすごいことになっていますね。

というように、ああやって、四季折々のことをいただいたり、あるいは発表していただいた山岡さんといった方たちが、いろんな取組をしていただいている、命を感じる取組をこうやってしていただいているというふうなこともそうですし、先ほど、富安さん、シールラリー、ああいう取組をしていただいたりとか、みんながいろんなことに関わっていただいたことによって、その関係する人が増えてきた。

じゃあ、これからもっと、人がたくさん来ればいいというものではないと思うんですけど、ただ、みんなのものにしていくために、まだまだ、実はこの夢見ヶ崎動物公園は、地域の、この周辺の人たちもいると。でも、川崎市で1個しかない特殊な公園を、もっと多くの人たちに知ってもらいたい。命を感じてもらいたいし、関わってもらいたいというふうにするためには、これから、どんな、今やっていたことのご紹介でもいいですし、もっとこんなことをしたいなと、もっとこんなことをしたら、もっといろんな方たちと関われるんじゃないかというアイデアを、一部では、お話、皆さんからが一つとだけ言っただけませんか。

第2部は、そういったことを実現するために、じゃあ、どうしましょうかということを考えましょう。ですから、まず、これからの30分ぐらいは、皆さんで、今こういうことをやっていますよ、でもいいです。あるいは、これからももっとこういうふうにしていきたいよということを、皆さんからお話をいただいてもいいですかね。

誰かしゃべりたい人はいますか。こんなことやってみたいよと、大平さん、いつてみましようか。既にやっていたいておりますがね。

大平さん：座ったままでも大丈夫ですか。

市長：座ったままでどうぞ。

大平さん：よろしくお願ひします。

目の前にある絵とか、そこにあるものもそうなんですけど、studio FLATは、障害のある人たちがアート活動をやって、地域の方だったりとか、いろんな社会とつながっていくみたいな活動をしているんですけど、実は、この3点、全部、廃棄のものを使わせていただいている、目の前にあるものが、大きい絵は、ここが建つ前の古い庁舎の、あれは何でしたか、女子更衣室でしたか、そのふすまをいただいて、そこに絵を描かせていただいているという、よく見ると、取っ手があるかと思うんですけど、ふすまに絵を描かせていただいて、その前の古かった庁舎の一部を使わせていただいたりとか、あと、その緑、全部緑なん

ですけど、「つながる・ひろがる・ゆめみらい」は、本当に近隣にあるテントの会社さんの廃棄のテントの生地をいただいて、それをキャンバスみたいに貼って、上に、今、絵を描かせてもらったりとか、あと、そちらの文字が書いてある「YUMEMI ZOO」とかというのは、文字の一部がビーズになっていて、地域のビーズ職人さんが高齢で、もうビーズを作れなくなっちゃったから、要らない、いっぱいあって、どうしようというので、頂いて、シールというか、のりを貼った上にばらばらと、子供たちにやってもらって、studio FLATのアーティストたちも一緒にやってというので、文字の部分がビーズでできていたりとかという、画材も、一部、廃棄の化粧品を使わせていただいたりとかというので、結構、廃棄のものをいっぱい、今、頂いて、アートに還元しているというような形で、今、目の前に持ってきたんですけど、どうしよう。ちょっとどうしましょう。見えますかね。

こちらは店舗とのコラボなんですけど、武蔵小杉にあるグランツリーという商業施設があって、その3階に無印さんが入っているんですけど、無印さんの廃棄のプラケースを頂いていて、店舗にそのまま捨てに来ると多分ポイントとかがつくから、直接、捨てに来られるんだと思うんですけど、半透明のもともとプラケースで、こういう小さいやつから、大きめのやつとかと、いろんなのがあるんですけど、それがもうコンテナいっぱいになっちゃって、本来は、粉碎して再利用もされるらしいんですけど、子供が絵を描いちゃっていたりとか、シールが貼ってあると、もう本当に廃棄になっちゃうそうなので、もったいない、機能としては全然ケースとして使えるので、もったいないというので、studio FLATのアーティストとか、イベントで、いろんな子供たちに上から絵を描いてもらって、アートプラケースというような形にして、保育園だとか、近所の介護施設とかに、汚れ物入れとかだったら、全然、使えるじゃないですか。

なので、寄贈するというような形で、今、そうですね、生涯学習センターさんとか、いろんなところに、今、あと、中原区になっちゃうんですけど、保育園に寄贈させていただいたりとか、いろんな、今、寄贈先、これは、今日、動物園のほうに使っていただけるように、動物の絵をいっぱい描いてきたので、頂いてもらえたらうれしいなというので、今、こういうプラケースをやっていたりするんで、何かこの地域を使って、そういった形で、何か子供たちが絵を描いて、何かに使ってもらおうというか、個人でもらっていてもいいかなというので、こういったのも何かできるといいかなというのを。

あと、さをり織りという織物もやっているんですけど、今日は現物がなくてあれなんですけど、廃棄の、フロンターレさんとかから、よく商店街にかかっている、のぼり旗みたいなものとか、タペストリーみたいなものをいただいて、それを横糸に使わせていただいたりとか、あと、鹿島田駅のいづみやさんと、制服を、中高生のサンプルで着てもうちょっと使えないというような制服を一部いただいて、それを横糸に入れさせていただいたりとかで反物を作るという企画があるんですけど、それも織機もここで、まだ実現できていないんですけど、それこそ地域の人たちが、自分たちで要らなくなった布とかを持ってきて、それを使って、何かここで飾ったりとかしていてもいいのかなとかと思っています。

市長：ありがとうございます。

動物公園をアートで人をつなげようという取組ですよね。本当に、ふすまとは分からなかったですね。

いろんなものを、アップサイクルというか、していただいて、これも川崎市で一緒にやっている無印良品のところで、というのは、無印良品のところで、いろんな違うメーカーのこういうのがあるんで、無印良品じゃなくてもいいですよって無印良品が集めて、川崎市で処理をすると。

ただ、今、大平さんが言われたように、いろんな不純物が入っていると、結局、ごみに回っちゃうからと、ごみになるものをアップサイクルしていただいたという、すばらしい、いい取組ですね。ありがとうございます。

どうでしょう。富安さん、先ほどご紹介いただいて、自己紹介じゃ、しゃべり切れなかったですよ、これ。びっくりしました、これ、完全に、何か委託で作って、完全な会社がかんているのかと思ったら、富安

さんのやつなんですね。これはすばらしい取組ですけど、もう1回、紹介していただいて、何か、ここはもうちょっとやりたかったなとか、これはもっとこうしたいなとかというものがあれば、ちょっとお聞かせいただいてもいいですか。

富安さん：何だろう。右上に載っている問題用紙があるんですけど、これのほかにも、あと3種類作って、全部で4種類にしたんですね。なんですけど、この4種類を全部回ると、動物園を満遍なく回れるようにというので、一応、選んだんですけど、答えを穴埋めしたらメッセージになるようにというので、「ま」と「た」と「き」と「て」と「ね」で作りたいんですけど、やっただんですけど、そうすると、動物がどうしても偏っちゃって、載せられない動物がいて。

市長：なるほど。

富安さん：あとは、「ゆめみがさき」でもやろうとしたんですけど、何かの文字が、ここの動物になくて載せられなくて、それがもうちょっと悔しかったです。

カードの種類も、ここには3種類しかないんですけど、全部で6種類作って、それも満遍なくということと、哺乳類と、爬虫類と、鳥類から2種類ずつ描いたんですけど、6種類だけだと、夢見ヶ崎動物公園にいる動物を知ってもらうには少な過ぎるので、もっとほかの動物も描けたらよかったなというのがあります。

市長：なるほどね。これ、何でシールラリーをやろうと思ったんですか。

富安さん：これは、最初はスタンプラリーか、クイズラリーにしたかったんですけど、スタンプラリーだと、置く場所も困るし、作るのもちょっと難しいかなというのと、クイズラリーだと、私がそこまで専門的な知識がないので、あと、難易度によっては、保育園の子とかには難し過ぎてクリアできないんじゃないかというので、このシールラリーだったら、一文字貼るだけでできるというのが、誰でもできるし、まだ字が書けなくても、貼るだけで答えることができるというので、シールラリーをやりました。

市長：ありがとうございます。

シールラリーとか、スタンプラリーは、むちゃくちゃ人気なんですよね。市内のいろんなイベントでも、スタンプラリーとかをやると、物すごい人が来て、僕は、ちょっとスタンプラリーを、ごめん、ばかにしていたぐらいの、すごく来るので、こういう形で、かつ地元の学校がかんでくれる、学生さんがかんでくれるというのは、すごくうれしい取組ですね。ありがとうございます。ちょっとすごいな。

ほかに、これまで取り組んだ、倉林さんに聞いてみましようか。

倉林さん：ありがとうございます。

先ほどの自己紹介でもちょっとお伝えしたんですけど、うちは幸盛HOUSEという親子カフェを、鹿島田で経営しているんですけども、そこにはやっぱり1か月ちゃんのママが親子で来たりとか、たくさんの方たちが親子で来てくださるんですけども、みんな幸区が一番いいところはどこだろうねと話すと、ここなんです。そう。

1か月さんとかからは、もうベビーカーで来られて、車も置いて、自転車も置いて、公園が広くて、芝生の上で広げてピクニックができるし、動物たちもいてというふうなことを伝えてくださるので、本当にこの場所がすばらしい場所なんだと、いつも改めて思うというところで、「パークセンターができて、授乳スペースができたんです」とか、「おむつ替えができるようになって、すごくうれしいです」というので、

それで、さっき市長もおっしゃっていましたが、ここができたというのも、やっぱり来場者数が上がった1つなんじゃないかなというふうに思っています。

市長：ありがとうございます。

倉林さん：あと、うち、実はここに写真も飾らせていただいたんですけども、1回、ここで今年度イベントをさせていただいてまして、FLATさんとかぶってしまうんですけども、障害を持つ小林大介さんという大人の方なんですけれども、その方がすごく絵が上手で、夢見ヶ崎動物公園の絵も、もうレッサーパンドを描いてほしいと言ったら、もうスラスラと描いちゃう方がいらっしゃるんですね。

その方をお呼びして、子供たちに、お絵かき大会みたいな感じで、一緒に命を感じながらやろうということで、障害を持つ方だったので、障害を持つお子さんも一緒に来たりとかして、一緒に絵を描いたんですけども、お互いに言葉がしゃべれなくても、一緒に絵を描いていて、絵画対談みたいな、心と心がつながっているみたいな、そんな場所も見られたりとかしたので、また、今月の末に第2回目をやるんですけども、そういった命がつながる場所というところで、すてきなところなんだなと、これも改めて思いましたので、もうやりたいことがたくさんというふうな感じでした。

あとは、坂がやっぱりすごいので、皆さん、バスが出ないかなとか、乗合タクシーが欲しいなとかというのは、やっぱり老若男女を問わず、おっしゃっていて、このゆめみらい交流会でも何度も出ているんですけど、そこが、交通の便がいつか実現できたらうれしいなと思いつつというところで、ここを盛り上げていきたいなと思っております、皆さんと一緒に。

市長：なるほど。ありがとうございます。

子供さんたちの話題が出てきたので、今日は新小倉小学校の4人の皆さんに聞いてみたいと思うんですけども、この公園が、どういうことをしたいな、あるいは、あったらいいなみたいなことがあったら、ちょっとコメントしてもらっていいですか。

じゃあ、動物好きの佐々木さんからいきますか。

ここで、こんなことをしたいな、こんなことがあったらいいなというものがあれば。

佐々木さん：うーん。

市長：今、パスでもいいですよ。

田中さんに、じゃあ、パス。また、思いついたら言ってね。

田中さん：もっと動物と人間の触れ合いとか、関わりをもうちょっと増やしたほうが、命を感じるころでも関わってくるのかなと思いました。

市長：どんな関わり方だろう、触れ合いって。何だったら楽しい。

田中さん：例えば動物とかに、夢見ヶ崎の飼育員さんとかが餌を準備しているのを、今度は自分たちがやって、その動物さんたちに食べてもらったり、掃除とか、そういうのをしたら、動物もうれしいし、こっち側としても、こんな体験ができるんだなとか、そういうのもできるからです。

市長：なるほど、びっくりします。餌をやるのもいいけど、餌を準備、掃除、びっくりしました。

ありがとうございます。

巢山さん、お願いします。

巢山さん：私は、鳥のさえずりが聞けるような場所をつくったらいいと思います。

理由は、ふだん鳥を見かけることも少ないし、鳥を見かけることはたまにあるんですけど、いろんな種類の鳥はなかなかいないので、いろんな種類の動物がいる動物園だからこそ、鳥のさえずりが聞けるような場所をつくったらいいと思います。

市長：なるほど。ありがとうございます。

聞くという、五感ですね。

園長、何か鳴くというか、さえずり、鳴く鳥、何かいますか。

園長：実は、渡り鳥の中継地点になっておりまして、これから春の季節にいろんなさえずりを聞くことができるんですね。

昨年度、実は探鳥会といって、この加瀬山のリハビリテーターさんがいらっしゃるんですが、その方と一緒に、鳥を観察する会という、生物多様性セミナーというのをやらせていただいたりしているので、ぜひ、今年もやるので、ご参加、飼育の日にやりますので、ご参加いただければと思います。

市長：それは、時間は何時ぐらいに、さえずっているのが聞こえるんですか。

園長：私が通勤するときに、まず歩いて、いろんなさえずりを聞くんですけども、特に、別に昼間であれば聞かれるので、みんなと一緒に。

市長：放課後でも大丈夫なんですか。

園長：そうですね。そこは、はい。

市長：巢山さん、こういうのを企画してみたくになりますよね。一緒に何かできるといいですね。巢山さんのお友達で、一緒に聞きたいという人とかと一緒に、そういう場ができるとうれしいですね。

イオリさん、いかがですか。

イオリさん：私は、飼育員は、みんな、一匹一匹ずつ大切に育てていたので、例えば、何か月に1回とかお祭りを開いて、それで動物と触れ合うように、みんなが自然を何か感じるようにつくったりすると、子供たちも、みんな楽しく動物園に来られるかなと思いました。

市長：4人の皆さんに、拍手ですよ。

ごめん、待った。まだ3人だった。佐々木さん、お願いします。

佐々木さん：前に飾ってあるやつ。

市長：ふすまアート。

佐々木さん：それを、実際にまた再利用というか、使えなくなってしまったものを捨てないで、ものの大切さを教える、何か会を開いたらいいと思います。

市長：大平さんに1票ということですね。こういうことをやりたいと、いいですね。

どうですか、今までの話を聞いて、青山さん、ちょっと感想をもらってもいいですか。特に子供たちの声について。

青山さん：いや、本当に、子供たちの声がすばらし過ぎて、もう啞然なんですけど、やっぱりお子さんたちは、今、このシールラリーのやつをもらって、早速、みんな、自分で穴埋めしていたんですよ。

これを埋めたらどうなるのと、最初、言われて、「ごめん、8月のイベントのときだったら、埋めたらカードをもらえたんだけど、今日はもらえないわ」と言ったら、「そんなのやっていたの知らなかった」という感じだったんですよ。

やっぱりイベントをやっても、それを周知していただかないと、なかなか広がっていかないので、これをどう周知させていくかも、1つ、課題なのかなと思ったりしました。

市長：ありがとうございます。

先ほど山岡さんのご説明の取組の中で、これは大人でもむちゃくちゃ興味ありますと思ったのは、ラマの毛を触ってみたいとか、呼吸の感じ、膨らんだりとかは、そういうのを触ってみたい、体感してみたいというのは、子供だけじゃなくて、大人もそういう感じがするんですよ。

やってみたんですよ、あれ。やってみて、感想とか、何か反応みたいなのは、もう少し詳しく聞かせていただいてもいいですか。

山岡さん：そうですね。特にラマの息遣いを感じるものとかは、もともと動物の動きを感じられるという、そういう体験はあったんですけど、特に本物のラマの毛をつけるというのは、誰もやったことがなくて、つけるからこそ、よりリアルに感じるができるというような感想を、すごく展示していて、もらいましたね。

いろいろな、ラマじゃない、リスとか、カメとか、そういう動きも展示して、その違いが分かるとか、そういう意見はすごくたくさんもらうことができました。

市長：そうですね。ペンギンを触ってみたいけど、触れないですものね。

触れないですものね、園長。だから、この辺はどうなっているのかなとか、興味がありますよね。

これは、でも、慶應さん、すごいですね。そういう触れないものを疑似体験させてくれるとか、想像力から、本当に体感までさせてくれるというのは。

山岡さん：そうですね。やっぱりデザインの研究なので、何か、デザインというのは、ある種、課題を解決するというのが軸にはなっているので、課題がないと出発できないということで、動物公園さんのほうに話を聞くと、やっぱりそういうふうに動物に触らせたいけど、触らせられないとか、こういう骨格標本も、なかなか本当は触らせたいんだけど、やっぱり傷んだりするみたいな理由もあって、触れないというのを、どうにか新しい技術で、何か触れたりできる体験をつくれなかなということ、学生たちがすごく考えて、こんなアイデアだったらそれを提供できるよね、みたいなことでやっていたね。

なので、ただ、そういう先ほども話したところ、これをどんどん広げていくという話でいうと、ここだけの触れる体験じゃなくて、それを例えばオンライン上で、ここの何か楽しさをオンラインで伝えるみたいな、

そういう活動もこれからやろうとはして、何かここで、みんな来て、楽しい思い出とか、そういう触感とかをWebサイトに投稿すると、ほかの、ここに住んでない方々も、こんな面白いことを体験できるんだみたいなことで、じゃあ、ここに来ようかなみたいな、そういうことを今まさにやろうとしています。

市長：すばらしい。ありがとうございます。

大塚さん、何となく、司会をやっていただいたのに、指していいのかどうか分からなかったんだけど、ぜひ、すごくいっぱい取組をやっていただいている、ゆめみらい交流会でも様々な主導していただいて、そういう意味では、こういうことをやってきたよ、あるいは、もうちょっとこういうところをやっていききたいなみたいな分野みたいなことはありますか。

大塚さん：そうですね。私、市長は覚えてくださっているか、ゆめみらい交流会の最初のきっかけになった、8年前の車座集会に私は参加させていただいているから、成川さんとかもそうだし、ゆめみらい交流会に関しては最古参であるという、ちょっとした自負があるんですけど、でも、本当にいろんなジャンルの地域団体の方、プロの方から、趣味の範囲の方まで、あと、本当にただ動物園が好きだというだけの一般の区民の方まで、いろんな方が、本当にこの動物園を大事に思っている人が物すごくいっぱいいるということ、ここにいる皆さんもそうですし、本当に知っているから、何か、漠然とですけど、その大事にしているんだよという気持ちをもっともっと1か所に集めることはできないのかなと、すごく漠然と思っています。

だから、こういうふうに、動物園っていいところだよ、私たちにとても大切な場所だよというふうに語り合える場所が、それこそゆめみらい交流会もそうですし、何かあったらすてきなと今ふと思いましたね。

例えば、このパークセンターで、今日は自由交流会の日みたいに開かれていたら、ここに来たら、誰か、動物園のことについて意見を言いたい人もいるし、こんな動物がいるよと、ただ話したいだけの人もいるし、とかみたいな、フリーに交流できる機会とかがあったら、何かもっと思いがじんわりと広がっていくんじゃないかなというふうに、今、話しながら、ふと思いました。

市長：めちゃくちゃいいコメント、ありがとうございます。

まさに、その話を2部でやりますから、ぜひ。

大塚さん：もう1つだけいいですか。

市長：どうぞ。

大塚さん：私、（自称）専属アイドルというふうに、区内を中心にはなりますけど、中原区とか、川崎区とか、あと、北のほうにも、たまに行かせていただくときに、どうしても幸区の中ではさすがに（自称）夢見ヶ崎動物公園専属アイドルですと言うと、ああ、夢見ヶ崎動物公園ねと分かるんですけど、本当に、一步、中原区に行くと、「え、川崎市に動物園があるの」とおっしゃる方が驚くほどいるんです。

これは本当にびっくりしちゃって、私みたいに夢見ヶ崎の真下で育った、まさにここで生かされた命の1人としては、知らない市民の方がこんなにまだいるかというのを本当に思うから、それも含めて、この思いを、区の外にどんどん広げていきたいなと思いますね。

市長：そうですね。本当にまとめのような言葉を。

大塚さん：恐縮です。とんでもない。ありがとうございます。

市長：まだ1部のところでコメントをいただいている方が、何人かいらっしゃるの、ちょっと一言、一言と言ったら失礼ですけど、コメントをいただきたいんですけど、まず、菅原さん。

今日は、やる気満々のトレーナーを着ていただいて、まさに動物園だね。すごいですよね、もうスピリットを見せまくっていただいて、ありがとうございます。

菅原さん：もう今日着ていかなきゃと思って着て来ました。動物たちと共に参加しております。

感想とかで大丈夫ですか。

市長：はい、結構です。

菅原さん：そうですね。結構、まちのおとには、地域活動に参加してみたいけど、どこからやればいいのかとか、そもそもやりたいかも分からないけど、どんなことがあるんですかという方がたくさんいらっしゃる時に、やっぱり、もう常にいろんなことがここで行われていると、何か好きなタイミングでぜひ行ってみたら、きっと何かヒントが得られますよという案内ができるし、イベントをしたい人だとハードルが高いけれど、こういうボランティアがあるみたいな、加瀬山の会もそうですね。ボランティアがやっていますよという、こっちもお誘いとか、お声かけがすごくしやすいし、相談者の方も、多分、ハードルが低いと思うので、何かそういう、ちょっと行ってみて、交流会かもしれない、行ってみたらいいよとか、ボランティアがあるよみたいな、敷居の低い形で、でも、ここに来たら、なんだかつながりや命を感じられて、次につながりそうな気がするというような場になっていくと、すごくうれしいし、紹介しがいいがあるなというふうに思うのがまず1つ。

あとは、まちのおとでは、地域情報誌の作成を地域のボランティアさんとしていて、今年は、下は小学生の方、上はシニアの方まで、本当に多世代のスタッフさんが、地域のことを知りたいなという活動に参加してくださっていたので、ここで行われているいろんな活動を、ボランティアの皆さんとぜひ取材したいなというふうに、皆さんのお話を聞いていて思いました。

市長：ありがとうございます。

すごくいいコメントをいただいて、第2部でももう1回、コメントをいただきたいと思いますが、じゃあ、井出さん、お願いします。どういう可能性を感じましたか。

井出さん：さっき田中くんがすごくいいことを言ったなと思うんですけど、参加型のそういうイベントみたいなものは、物すごくやっぱり共感を生むものがあるので、本当にそういう、一日飼育員じゃないですけど、そういうことをやることによって、自分が飼育した動物は、今、どうなっているのかなと、もう気になって、気になって、多分、しよがなくなりますが、例えばこの建物だとか、結構、新しい建物を建てたりだとか、修繕なんかもそうなんですけれども、そういったところにボランティア的にやっぱり参加していただく。

俺が塗ったペンキ、あそこに塗ったところはどうなっているかなとかというので、気になって、気になってしよがなくなってくるという、そういう取組なんかを、こういうところでもできないかななんて、今、自分の本当に勝手なアイデアですけど、思いました。

市長：ありがとうございます。

それでは、浅利さん、コメントをいただいてもいいですか。いろんな可能性が見えてきたような気もする

と思うんですが。

浅利さん：そうですね。ただ、1点だけ、子供たちに、入学式のときに、自治会でかなえられるものは何でもかなえますと言ってしまった都合上、ちょっと聞いていて、ぞっとしたというか、できる限り頑張りますということ、まず1つ。

やっぱりいろんな話が出てきて、僕は、結構、初めて聞く話が今回多かったので、かなり情報で、今、混乱しているような状況なんです。それを整理する場があれば、みんなも来やすいかなと思っています。

1点だけ、私からは、坂道がやっぱり厳しくて、来にくいという方がいらっしゃるという話があったんですけども、今、商店街と話しているのは、その特性、坂道を特性として捉えて、その坂道を何秒でダッシュできるかみたいなというような、そこを楽しみましょうみたいなイベントを、今、考えていますので、そんなこともできればなと思います。

以上です。

市長：面白い。坂道ダッシュ。

すみません、それでは、コトニアが、そうですね。

菅井さん、もう1回。まだコメントをいただいていない。すみません。

菅井さん、お願いできますか。

菅井さん：すみません、ありがとうございます。

コトニアガーデン新川崎のお隣にあるんですけども、私たちの会社が、一応、不動産ディベロッパーというのが会社の立ち位置なので、コトニアガーデン新川崎の多世代交流ということで、小さい保育園児さんからご高齢の方まで過ごせる場所みたいなことを目指しているんですね。

ただ作って終わりではなくて、施設はもちろんなんですけど、その周辺もよくなっていくことを、私たちも頑張ろうみたいなことを、今、掲げているんですね。

なので、コトニアガーデンで、先ほど、はたらくらずさんとか、山岡先生もお話を出していただいたんですけど、まちフェスタというイベントを、年に2回、開催しているんですが、自分たちの中だけで完結するのではなくて、地域のすごく大切な事業の、こちらの動物公園さんと、ちょっとでもいいから、何か一緒にやらせていただいて、動物公園さんの魅力を多くの方に知っていただきたいなというふうに思っています。

過去にやらせていただいたのは、例えばナミキデザインさんのイラストをコトニアに貼らせていただいたりとか、富安さんのイラストも、クイズ、ちょっとお借りして、コトニアまちフェスタの中で、トライしてもらい機会をつくらせていただいたりとか、過去には、はたらくらずさんと動物園の職員の方で、加瀬山ツアーとかをやらせていただいて、探検隊と自然体験してもらったり、動物について解説してもらい機会とかをつくったりしてというのをやらせていただいていました。

なので、これからも、引き続き、動物公園さんとは、何かしらちょっとずつ、ちょっとずつ連携を増やせていけたらうれしいなというふうに思っているところです。

市長：ありがとうございます。

私も、去年でしたかね、ここにお邪魔して、バックヤード、餌やりをしている、その餌の準備をしているところとかも見せてもらったんですけど、「え、この動物って、こんなのを食べるんだ」とか、「こんなに量を食べるんだ」とか、動物に関して知らないことが多過ぎて、やっぱり知ると、何か楽しくなってきた、もっと関わりたいと、今お話しいただいたとおりなんですけれども、やっぱり知らないと分からないし、知って何らかの関わり方をすると、好きになってくるという、そういう人たちをどれだけ多く増やせるかなと

というのが課題というか、先ほど大塚さんからもありましたけれども、どうやったら多くの人たちに知ってもらえるのかというふうなことの課題については、第2部でお話したいと思いますが、時間が押していますので、8分ぐらい休憩を取るタイミングがあったらいいんですが、どう、3分ぐらいでいける感じですか。

やめておきましょうか、お手洗いが必要でしたね。お手洗いにいく方もいらっしゃるの、じゃあ、5分にしましょうか。5分休憩にして、5分後に必ず集まってくださいということで、じゃあ、5分休憩をお願いします。

(休憩)

<意見交換 テーマ：みんなで夢見ヶ崎動物公園を盛り上げるために>

司会：それでは、引き続き、市長と皆様で意見交換させていただきます。

市長、よろしく願いいたします。

市長：では、2部もよろしく願いします。

それでは、先ほど大塚さんが少しコメントしていただいた、せっかくこんないい話があるので、もっと話し合える場所とかというふうなお話がありましたよね。

もう1回、立ち返って、みんなのマインドをそこに持っていきたいので、もう1回、コメントしてもらっていいですか。改めて、その思いというものを、少し補足なりしていただけるとありがたいです。

大塚さん：ありがとうございます。

すごい何か、でも、そうですね、皆さんの気持ちを代弁ということで。

市長：最古参として。

大塚さん：とんでもない。すみません、変なことを言っちゃった、自分で。

いや、改めてですけれども、本当にこの夢見ヶ崎動物公園の加瀬山が、特に幸区民、あと、この日吉地区の皆さんにとって本当に貴重な財産で、宝物、地域の本当に自慢だという気持ちは、本当に漏れなく、もしかしたら、自慢だということに気がついていないぐらい自然に受け入れている子供たちもいるでしょうし、私も、大人になってから改めて、ここってこんなに貴重な場所なんだというふうに再認識したところもあるので、そういう子供もいて、もう大ベテランの方もいてという、この空間でやっぱり改めて、この動物公園という場所が、本当にどれだけすてきなところで、私たちがこれからも守りたいところなのかということは、ぜひお話を聞きたいなと思います。

市長：ありがとうございます。

先ほど言ったように、みんなの公園というふうなものを、もっと多くの人たちの公園に、市民のすごいスペシャルな場所にしていくためにというためには、やっぱり手を入れ続けなくちゃいけない、関わり続けなくちゃいけないと思うんですよ。

ですから、加瀬山の会の皆さんが、毎日のように手を入れていただいて、こうやって整備していただいて、きれいに、日々、進化していくことをやっていただいたおかげで、これだけきれいなものにもなってきました。

先ほどのお話、パークセンターもそうだし、それぞれ皆さんがやっていただいている活動、関わっていただいたということが、ここがみんなの公園になりつつあると、だけど、もっといこうと、もっといくために

は、今までの装置ではちょっとな、ということなんじゃないかと思うんですけど、もう一步レベルを高めていくためには、どんな仕掛けが必要かということ、第2部で、何とかそこに持っていきたいなど、せっかくみんなが集まって、ここまで素晴らしい人たちが関わっていただいているので、今日、これは5時に終わる、あと30分後には、よし、次はこういこうというところで、何となくのぼんやりでもいいので、ものに持っていきたいなというふうにするので、ちょっと言いたいことがある、はるちゃん、絶対ありそうな感じするなと思って、どうでしょうか。

青山さん：ありがとうございます。毎年、ゆめみらい交流会では、いろんなことをテーマにお話ししているんですが、今年度は、3回、交流会を開催いたしまして、毎回、26名から40名の方にご参加いただいております。

そこで、本当にいろんなアイデアが出るんですが、やっぱりそれを実現するには、ちょっと課題があったり、現実的ではないかもなと思われるようなことが多々あるんですよ。

それが、こちらがお手元にあるかと思うんですが、ゆめみらい交流会の今年度の活動について、企画課の方がまとめてくださっていますので、見ていただけたらと思うんですが、1回目と2回目を通じて、夢見ヶ崎動物公園のいいよねというところを出していきまして、みんなでワークショップ形式で出していきまして、もう本当にいろんなアイデアが出たんですが、それを基に、実際に実現するにはどうしたらいいかなというのを、第2回目の交流会のときに、ぼんやりA班、B班、C班と分かれて、こんなことやりたいよねというのを煮詰めていきまして。

そして、最後、3回目のときには、もう完全に内容を決めて、実施時期もざっくりこれぐらいの時期がいいよね、どこでやろう、誰が、どんなことが必要かなというのを出していきまして。

このときにポイントにしたのは、やはり命を感じるポイントをテーマに、A班、B班、C班が出していきまして、それぞれやっぱり命の解釈はいろいろあるんですが、A班の場合は、山や草花、夢を持つ人々、歴史、動物というのが知れる、1泊2日、加瀬山魅力モリモリツアーを、A班は企画しました。

やはりそれも魅力的なんです、そのためにはハードルがあるよね。例えば火気厳禁だけど、火を使えないから、ご飯をどうしようとか、テントの設備をどうしようなど、右下の必要なもののように課題も出てきました。

また、B班の方も、命を感じるポイントとして、多世代の交流とかを意識しようということで、加瀬山ウオークラリーイベントをB班は計画しました。こちら、夏場は暑過ぎるから、でも、あえて夏の来場者数が少ないときに、夕方とか、夜でやるのはどうだろうみたいな意見があったんですが、やっぱり夜だと騒音が問題になるかなとかとなると、みんな、必要なものだったり、ハードルがちょっと高い感じがありましたね。

最後、C班に関しては、もういのちしか感じない自由研究をテーマに、こちらでも計画したんですが、やはり安全面とか、ちょっとハードルがあって、実現には、もう少し、もう一步踏み出さないといけないんだなというのが、今の交流会の課題となっております。

これをどう実現に向けて、もう一步踏み出すか、ぜひ、みんなのご意見が聞きたいところではございます。

市長：なるほど。こんなにできているんですね、A、B、Cプラン。この未来交流会に関わっていない方は手を挙げていただけますか。

なるほど、なるほど。ありがとうございます。

これは、役所で解決する話と、役所じゃ解決できない話と、いろいろパターンがあるじゃないですか。

だけど、こういう人たちが参加してくれたら、もっと解決するかもしれない、解決のアイデアが出てくるかもしれないというふうな話でいくと、さらに、もうちょっと決まっている、この27年5月にと書いてあ

る、今年の5月ですか。26年か、まだ、来年ですね。

来年の5月に、A班、1泊2日のモリモリツアーをやると、これはやってみないとあれですよ。実現しよう。そのために、さらに仲間を増やそうと。

どうですかね、入りたいよね。ぜひ、1泊2日やりたいよね。

私もやりたいと思うぐらい。だから、何か子供たちの声も聞いてみたいとか。ぜひ、PTAさんなんかもね、浅利さん。

無理やり言わせている感がすごいかもしれません。でも、面白いですよ。いや、地域の人たち、PTAの方たち、子供たちの意見もいただいて、もっといいものにとかというふうな形の、少し、さらに、せっかくこれまでやってきた蓄積のある交流会というものを、さらにオープンに仲間を増やしてということになっていくと、自分の持ち合わせていないソリューションを持っている人たちもいるかもしれないというふうな形で、さらに次をやっていくために、菅井さんのところの、ここもそうだし、菅井さんの施設も多世代交流の場としてミーティングで使っていていいですか。

菅井さん：ありがとうございます。屋外でもよければ、ぜひぜひ、青空でやりたいですね。

市長：青空もいいですけど、屋内は駄目ですか。

菅井さん：今、まだ、すみません、ありがとうございます。

以前は、実は、多分、交流会とかでも使っていたことがあるんですけど、コロナ以降、施設管理者さんのほうで、感染症がとてつもないということで、なので、制限がある利用なんです。

なので、ぜひお天気のいいときに、皆さんでキャンプチェアとかに座りながら、お話しできたらうれしいです。

市長：それも面白いですね。

菅井さん：はい。

市長：ありがとうございます。

園長、ここも、園長、比較的というか、みんなミーティングするときは、今までは平日に集まっているんですか。

園長：はい。多目的室は、皆さんに利用いただいているので、365日、4時までなんですけれども、お使いいただくので、ミーティングでも、いろんなことにお使いいただいています。

市長：何時からやっていたんですか。今まで、どこで。

園長：4時から6時。ここができてから。

市長：なるほど。子供さんたちも、4時から6時だったらいけますか、校長先生。

大丈夫ですか。駄目かな。

いろいろあるかもしれないですけども、いつか、そういうのを話すのがいいタイミングなんですか。

富安さんは、参加できるというか、高校生はどうなのとか、大学生はどうなのとか、ご自身が参加される

かされないかは別にして、世代的にどうなんですかね。平日、休日、みんなが参加しやすくてというふうなのはいつなんだろうという。

富安さん：でも、放課後、基本的にみんな部活に行くか、バイトに行くかで、時間がないと言っている子が多いイメージがあります。

市長：なるほどね。そうか。

この前、高校生と話したら、こういうことを言っていましたよ、忙しいやつは忙しいんだけど、暇なやつはすごい暇ですと。だから、意外と時間がある人は時間があるし、忙しい人は忙しいという話を言っていました。なるほど。

何かこうしたら、もっといいんじゃないのというような、ありませんかね。

山岡さん、どうですか、大学生だとか、こうだったら参加しやすいかなとか、もうちょっと意見を言いやすいような形になるかなとか。

山岡さん：意見を言いやすい形ですよ。大学生は、割と比較的時間は取りやすいので、好きな時間に、授業を取ってなければ参加できるというのはあるし、ある種、授業の一環として、ミーティングとかこういう会でいろいろ話し合ってもすごくいいのと、あと、うちは特徴として、6割ぐらいが留学生という、普通の大学とは少し異なるところもあって、言語のバリアというのもあったりして、結構、ミーティングでも、なかなか日本語がうまくしゃべれない。でも、こちらの方々は、皆さん、そこもすごくサポートしてくださって、でも、すごくやる気はあって、学生たちも。

なので、そうだな、だから、そうですね、いや、何かある種、僕らは、むしろ、何かすごくそこは好意的に、ある種、活動の一環として、何かそういう話し合う場を、逆に、僕らはつくりたいですね。

市長：ありがとうございます、すごく積極的なご意見で。

石渡さん、いかがですか。

石渡さん：ありがとうございます。

先ほどの、忙しいやつは忙しいけど、暇なやつは暇だというのは、各世代でそうかなと思っていて、中学生でも、文化部に入っている子は、結構、余裕があるかなというのを、自分の子供たちとか、はたらくらすに関わってくれる子たちは、そういう子たちだなというのを思います。

なので、部活の一環として、放課後にここに来るんだとかという促しが、さっきアートの文脈があったので、例えば日吉中学校の美術部の子たちが、週1回、ここで活動する、そこに合わせてミーティングをするとかということとか、あと、通信制の高校に通っている子たちも、結構、今、様々で、通いの通信というのもあるというのを知って、そういう子たちにおいては、週3回とか、週2回とか、通学の日数も選べるような子たちもいるので、そこで、外に出るのが苦じゃない子であれば、こういった活動にも積極的な子が中にはいるんじゃないかなんていうのも思いました。

市長：なるほど。本当に、幸区のソーシャルデザインセンターが、いろんなつなぐ役割をしていただいていると思いますけれども、その観点からご意見をいただいてもいいですか。

菅原さん：そうですね。それこそ、各世代に、多分、活動的な方や、時間がたくさんある方が色々いらっしやると思うんですけど、時間的なところもありますが、やっぱりここまで初めての場所に行くみたいなハ

ードルもある方が多いなと思っているので、何か会議の場所も、ここは拠点なんだけれど、今日は青空でやってみようとか、ほかの場所でやってみるみたいなのところになると、近所の方がちょっと行けるとか、ご飯支度もすぐしやすいとかということもある気がするので、何かいろんな場所で、出張ゆめみらい交流会みたいなのところでやってみるのも、なんだか、いいのかなというふうに思ったりしました。

市長：そうですね。確かにもうちょっとエリアを拡大していく、関係人口を増やしていくという意味でも、出張会議みたいなのをやっていくと、いろんな人たちを、また新規の人たちを巻き込める可能性があるということですかね。

菅原さん：そうですね。何か、ここなら行けるけど、ここなら行けないと、結構、人によって、様々な、いろんなラインがあるのかなというふうに思うので、何かその集まりやすさを探りつつ、何かここでやるために、いろんなところでも周知だったりとか、いろんな方のお話を聞くみたいな場所があったら、もしかしたらいいのかもと思いました。

結構、タウンカフェでやるイベントも、夜は子供のご飯の準備が、みたいな方もいらっしゃるんですけど、だからこそ、そういう方たちのおうちの近くで、もっと何かやれるみたいなことがあると、ちょっと参加して、すぐ帰って、ご飯の準備をするみたいなこともできるかなと思うので、いろんな方のそばでやりつつ、でも、週末はみんなで動物公園に行こうみたいなことの路線ができると、もしかしたら参加しやすい方が増えるかもなというふうに少し思いました。

市長：ありがとうございます。

せっかく、このゆめみらい交流会で積み上げてきた議論というふうなのをしっかり実現させていく。その中で、やりながら仲間をどんどん増やしていくというような取組をしていかなければなど、こんなに、僕、すみません、大分、煮詰まっている話なんだということで再認識しましたけれども、せっかくだったら、これを本当に実現しましょうねと、来年5月のイベントもとか、できる、できない、いろいろあるけど、それをどうやってみんなでクリアしていくかというふうなのをやりながら、仲間を増やす。

なかなか、その仲間づくりを増やしていかないと、あるいは、幸区から飛び出ていくということをしなないと、なかなか広がりが出てこないということもあると思うので、せっかくのこの加瀬山の魅力をより広範な人たちに関わってもらって、というふうなのが大事かなというふうに思いますね。

ありがとうございます。

どうでしょう、皆さん、こういうことをしたらという。

大平さん。

大平さん：そうですね。やっぱり時間の制限がどうしてもあったりすると思うんで、例えば小中校とか、何か事業の一環で、メインはこの会場で、学生たちは何かZ o o mとか、メディアでつながって、意見交換できるとか、何か、そういう、テクノロジーも借りつつやれると、今、皆さんは携帯を持っているし、何かおうちをどうしても離れられないけど、5分、10分だったら携帯で参加できますみたいな人もいると思うんで、何かそういう人は携帯で参加して、プロジェクターで映して参加してもらおうとかという、そういう人もいいですよみたいな感じにしておけば、もう少し、いろんな方が気軽にこういった交流会に参加できるのかななんて思いました。

市長：これは、今、中心的に交流会のほうを回していただいている方というふうなのは、どういう主要メンバーというか、何か、そういう幹事さんとかはいらっしゃるんですか。

青山さん：今は、もう幸区企画課さんが、何月何日に、どこでやりますというのをお知らせして、参加いただいています、主に、ゆうゆうや私が司会進行をしながら、でも、テーマとかは企画課さんのほうが決めてくださっています。

市長：なるほど。どうぞ。

倉林さん：ゆめみらい交流会に参加させていただいて、いろいろ案を出させていただいて、みんなで一緒に考えているんですけども、子供たち、さっきのこのA班で言うと、夜のZOOナイトツアーとかがあって、夜の動物たちの鳴き声だったり、寝ている動物も多いと思うんですけども、とかというので、いろいろ案があって、でも、子供たちのさっきの案がすごくやっぱりよかったなと思ったので、この前も学生さんたちと一緒にやるイベントがあったんですけど、それはおっしゃるとおり、放課後、時間がある子たちだったりとか、小学生は先生がついてきてくださって、一緒にやるみたいなところで、やっぱりその交流会に、いろんな多世代の方たちが参加させていただいてやったらいいよなというふうに思っています。

さっき、いろんなところでお話を聞いてというところもありだと思っていて、例えば授業でやった内容を集約して、どなたか1人来ていただいて、このゆめみらい交流会で発表するとか、あと、課題もいっぱいあると思うので、これだったら、こういう方がいるよみたいなので、何か集めてきたらいいよなというふうに、答えになっていないんですけども、思いましたね。

だから、何か、事業でも、場所でも、いろんなところでやってもらって、どなたか1人、集約した人がゆめみらい交流会に参加できるとか、何かそういったのもいいんじゃないかなと思いました。

市長：なるほど、いいですね。

結構、いろんな角度の、この車座のところでも課題となっているのが、実は運営をどうするんだという、これから持続的な発展をして、いろんな人とつながりたいといったときに、役所のところでやると本当にへビーなんですよ。

今、この交流会でという形で、事務局の企画でやっているというふうなもの、今の段階ではいいと思うんですけども、今後の話をしていくといったときには、やっぱりこれは役所は、ある程度、離していかないと、正直、面白いものはつukれないというふうに思うんですよね。

主導的になっていかないというふうなこともあるんですけど、そういうところを見据えて考えていかないと、何となく事務局が忙しくなったら、何となくしぼむみたいな話というふうになると、なかなか面白くない話になってくるなというふうなことを、まず最初に認識しておくことがすごくベースとして大事かなと思うんですけど、どうですかね。

この認識がちょっと違っちゃうと、何かこの先に行って大変だなとかと思うんですけど、どうでしょう。

はい、どうぞ。

青山さん：実際、実は企画課さんにはないしょにしながら、オフレコで某SNSで、みんなつながったりはしてまして、そこで何となく、みんな、自分の活動の紹介とかはしたりはするんですけど、そこから、じゃあ、今回、議題に上がったこれを実際に行うに移すために、この日、みんな集まりましようみたいなのところまではまだ行けていなくて、そうなんです。何か、どこまでこっちが勝手に動いていいのかなというの、ちょっと気になるところです。

市長：いや、すごくいいじゃないですか。知らないのという、これは自主的な形で。

青山さん：そうですね。自主的な形で。

市長：素晴らしいですね。もう既につながって、自主的な、いわゆるSNSでグループができていて。

青山さん：そうです。

市長：そこに加わっていくような形というのがいいんですかね。

青山さん：そうですね。

市長：例えば、場はここでやろうとか、場の設定は巡回でとかというふうな話もあるけど、場所の手配という、だから、そういうふうなのは、例えば園がやるとかというふうな形とか、いいんじゃないかと思えますけど、園長も縦に首を振っていますけど、そういうやり方で、さらに仲間をどんどん増やしていこうよというふうな形でグループを増やしていく、そんなイメージですか。どうですか、大塚さん。

成川さん、いかがですか。成川会長。

成川さん：すみません、座って話しさせてもらいます。

この加瀬山のいいところをたくさん皆さんが思っていることは、大変うれしいですね。これだけのことは、なかなかできないです。

私の夢というのは、今、加瀬山の山に古い木が多過ぎる。危なくてしょうがないということがあるので、私たち、毎日来てやっている管理の中で、新しい木に植え替えていこうと、これが最大の夢なんですよ。

皆様の夢をしっかりいただきながら、これからどうやっていけばいいんだろうということ、今まで動物公園が50年、これから先50年、じゃあ、どうすりゃいいんだろう。

それを、50年のうちに、先50年のうちに古い木を切断して、新しい木に植え替えると、そうしますと、小学校の皆様が二十歳過ぎ、結婚する頃には、素晴らしい山にもっとなるだろうと思ったんですよ。

それで、私たち、長く交流会も参加して、いろいろ話を聞くんですけど、多摩区、宮前区、あそこの皆さんは言うことが違うね。素晴らしい思いが、行って聞くと、胸を打たれるくらい一生懸命ですね。これは川崎市でも、なかなかできないことですね。

だから、よし、加瀬山をこれだけ皆様が思っているので、これを日吉出張所のところからずっと上がってくるときに、大きな木がたくさんある。これを新規になるのは10年先、そうすると、2年先だと、道路が広がって、新しい木がざっとなる。そうしますと、小学校の子供たちが二十歳になる頃には素晴らしい山になるんですよ。これは、帰りに見ながら、木を見ていってください、なるほどなど。ところが、10年先、20年先だと全く変わっちゃうから、新しい木ができる、20年ですね。日吉出張所のところから上がってくると、まるっきり変わってくる。

それと、動物園ということ、園長さんが動物園の係で、生態系があるから、夢見ヶ崎動物公園と呼ばれるような公園になったらいいなと、それが夢ですね。

市長：ありがとうございます。

成川さんの夢を、成川さんは、今、90歳ぐらいですか。もうちょっとで90歳。

すごい大先輩ですよ、もう本当に素晴らしい。ありがとうございます。

何かこの辺りから、「そうだ」というふうな声が聞こえたけど、誰だったかな。田中さんかな。

田中さん、どうぞ。今、せっかく大先輩のいい。

田中さん：新しい木をいっぱい植えるという面では、学校でやっている緑の羽根募金で集めたお金を、木とか植えるお金とかにしたら、もっと夢もかなうと思うし、きれいな夢見ヶ崎動物公園になると思います。

市長：うわあ、すてきです。ありがとうございます。緑の羽のように。  
どうぞ、イオリさん。

イオリさん：私は、みんなのことを聞いて、ボランティアを集めたりすると、もっと加瀬山とか、いろんなところが、もっと緑になるかなと思って、豊かになるし、そうすると、もっと人も来たり、自然を好きになったりするかなと思いました。

市長：ありがとうございます。  
ボランティアに参加する、イオリさん、ありがとうございます。  
コメント、大丈夫ですか。  
巢山さん、大丈夫。どうぞ、意見をどうぞ。

巢山さん：お土産コーナーをつくったらいいと思って、お土産コーナーをつくって、動物の説明なども一緒に壁に飾っておけば、動物たちのことをもっと知ってもらえると思うし、動物の命や動物についてクイズで知れるような本を作れば、小さい子供でも、動物のことをもっと知れるかなと思ったので、お土産コーナーをつくったらいいと思います。

市長：素晴らしいアイデアです。多分、グッズを作りたい人はいっぱいいると思います。  
佐々木さん、どうぞ。

佐々木さん：巢山さんが、お土産コーナーをつくらと言っていたじゃないですか。それで、なんか加瀬山にある、木の枝とかで、何か工作体験コーナーとかをつくったらどうかなみたいな感じを思いました。

市長：すごく、うなずいている。物すごく、うなずいている。素晴らしい。ありがとうございます。  
いや、いい、子供たちから、やっぱり子供たちが参加すると、こういうすてきな意見が出てくるということが、もう今日も改めて感じさせていただきましたけれども、すごく時間がもうなくなってきておりまして、そろそろまとめに入らなくちゃいけません、今日はこれは絶対言っておきたいと、今日はまだ全然言っていないぞという方がいらっしやいましたら、ちょっと二、三、伺いましょうか。どうですか。  
石渡さん、どうぞ。

石渡さん：ありがとうございます。  
子供たちの具体的なアイデアを聞いて私が思ったのは、子供たちが興味のある生き物のことが知れるということで、カブトムシの飼育日記が、何か、子供たちから集めた、こういうふうに着てたらうまくいったよとか、うまくいかなかったよも含めて、何か展示してあるとかという、例えばそういうことだったり、セミの羽化を見たことあるみたいな、見たことがある子が、こういう時間にこうしたらいいんだよみたいなのを掲示してあるとか、何かそういう興味があることは、幼稚園生、小学生でカブトムシとセミは、結構、鉄板かなと思うので、そういう情報がここに来ると取れるというのがあると、幸区内、そして、ほかの区からも

来るかななどというのを思いました。

市長：なるほど。本当に、だから、子供たちが何を求めているのかということ、直接、聞いた、今日はすごくいい、貴重な機会だったと思いますし、こういうのは、先ほどのお話にありましたけど、その会議に参加しなくても、意見を集約するとかというふうな機能があれば、もっと何か議論も充実した、意味のあるものになっていくというような気もしますね。

ですから、まとめっぽくなっちゃいますけれども、ぜひ、せっかく交流会の中で生まれてきたアイデアというふうなのを、やはりちゃんとした運営という形でどうしていくのかというのは、もう少しちゃんどご相談させていただきたいというふうに思いますが、やっぱりなるべく定期的に、いつでもこういうふうな子供たちの意見も、いろんな人たちの意見を投げて、一緒に考えて、参加していただけるようなスキームをより発展的に考えていくと、第2ステージに移っていくというふうな形で、今後、進めていっていただければいいんじゃないかなというふうに思っております。

ぜひ、これまで中心的に頑張っていた方はもちろんのこと、今日の交流会に今まで参加していなかった方については、ぜひこの交流会にも参加をいただいて、仲間を徐々に増やしていくということにご協力いただければというふうに思っています。

今日は、本当にすてきな皆さんにご参加いただいたことに、心から感謝申し上げたいと思います。

じゃあ、区長からコメントをいただいてもいいですか。

次、園長もいきます。

区長：皆さん、今日は本当にありがとうございました。

改めて、皆さんがやっぱりこの地を愛して、それぞれの命のこだわりを活動に生かされているんだというふうに思いましたし、今日は今日で、何か本当にお子さんたちから、小学生から、もう90歳の先輩まで、年齢も問わず、性別も問わず、それぞれの何かフィールドというか、背負っているものも問わず、それがいろいろ掛け合わさって、今後、どういった新たな価値というか、そういうものが生み出されていくのかなというのが非常に楽しみで、わくわくする会になりました。どうもありがとうございました。

市長：小倉園長からもいいですか。

園長：今日、皆さんのお話を伺って、とても勉強になりましたし、皆さんの愛情を一気に受けて幸せな気分にならせていただきました。

昆虫の話が出たので、最後に1つだけ。私どもの職員が昆虫標本を入り口のところに飾ってありますので、お帰りの際にぜひ見ていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

市長：ありがとうございました。

ぜひ、これからも、皆さんから愛される夢見ヶ崎動物公園にしていきたいと思ひますし、やっぱり何度も繰り返しになりますけれども、せっかくの公園なので、本当に多くの皆さんに知ってもらいたいし、関わって、好きになってもらいたいという思いでいっぱいなので、ぜひ、仲間づくりのためのことづくりみたいなことを皆さんと一緒にやっていただければなというふうに思っています。どうぞよろしくお願ひします。

本当にありがとうございました。

<閉会>

司会：以上で、第81回車座集会「みんなでつくる・つながる・つづける・感じる動物公園」は終了となり

ます。本日はありがとうございました。